

選出理事候補者一覧

中国・四国ブロック 定数 1名

(届出順、敬称略)

	氏名	勤務先
1	三宅 吉博	愛媛大学大学院 医学系研究科 疫学・予防医学
2	神田 秀幸	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 公衆衛生学
3	安田 誠史	高知大学 医学部 公衆衛生学教室

所 信 表 明

1	三宅 吉博	愛媛大学大学院 医学系研究科 疫学・予防医学
<p>愛媛大学大学院医学系研究科疫学・予防医学講座の三宅吉博と申します。近年、様々な技術や手法が疫学研究に導入され、今後の成果が楽しみとなっています。一方で、疫学研究の根幹をなす研究対象者集団の構築、つまり、新規に研究対象者をリクルートすることが難しい状況になっている印象を持っています。No single study gives a conclusion. たった1つの疫学研究の成果では結論を論じることができません。さらには、欧米人のエビデンスを日本人に適用すべきではないという観点も含めると、日本国内で多くの疫学研究のデータベースが構築され、国内の複数のエビデンスでメタ・アナリシスを行い、日本人独自の Convincing な結論が得られる状況が望まれます。昨今、研究費獲得に際し、新規性が問われます。新規性は分子生物学では必須事項ですが、疫学研究ではエビデンスを蓄積することが第一義です。医学系の研究領域では、分子生物学と疫学研究の二本柱が理想です。日本疫学会から分子生物学と疫学研究の違い、そして疫学研究の重要性を涵養できたらと考えております。</p>		

2	神田 秀幸	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 公衆衛生学
<p>データヘルス、データサイエンスの重要性が社会に認知されるようになりました。疫学が社会から必要とされる時代において、疫学研究成果の応用展開・社会実装を見据えた、研究立案や研究展開が大切です。本学会は、これまで以上に社会課題に応える立場であるニーズが高まっています。私は理事を1期2年担当し、疫学データの情報利活用ワーキンググループ長の任に当たり、時代の要請の高まりを身をもって感じました。本学会が、個々の会員サービスを通じた資質向上・研鑽の場にとどまらず、社会への貢献をも念頭において、本会が次の時代においてより大きな役割を果たせるように、微力ながら尽力したいと思います。</p>		

3	安田 誠史	高知大学 医学部 公衆衛生学教室
<p>(全国での取り組み) 私は、2017年に中国・四国ブロックの理事に選出していただき、2期務めさせていただきました。在任中、日本疫学会広報委員会疫学リテラシー普及促進ワーキンググループ座長として、一般市民の疫学研究に係わる事項の理解度の現状把握に取り組みました。ただ、その現状把握が慢性疾患の疫学に係る事項に偏っていたことが反省点です。再び理事に選出される光栄に浴しましたら、このワーキンググループを場に、コロナ禍を契機に拡充が求められている感染症の疫学に係る事項についても、一般市民が意義を正しく理解し、研究成果を日々の生活で適切に活用できるようにする基盤整備につながる取り組みを進めます。(地域での取り組み) 人口の少子高齢化と地域の活力の衰退が先行している中国・四国地域では、日本社会がこれから経験する健康・医療・福祉課題に取り組む疫学研究を先駆的に行えるはずで、地域独自の研究を担う次世代の人材の発掘・育成につながるよう、中国・四国地域の本学会員と本学会認定疫学専門家を増やし、中国・四国地域の会員による学術集会での発表と Journal of Epidemiology での論文発表を奨励する取り組みを企画し、その実現に努めます。</p>		

※勤務先の記載は立候補時の申告に基づいています。